



## 第70回青少年読書感想文全国コンクール

みなさんは、「読書感想文」を書いたことがありますか。夏休みの宿題だったという人もいるかと思います。

①子どもや若者が本に親しむ機会をつくり、読書の楽しさ、すばらしさを体験させ、読書の習慣化を図ること

②より深く読書し、読書の感動を文章に表現することをとおして、豊かな人間性や考える力を育むこと

を目的とした、全国学校図書館協議会と毎日新聞社主催のコンクールです。

課題読書（主催者の指定した図書）の部門と、自由読書（自由に選んだ図書）の部門があります。この自由読書に、2年生の本間凜さんが作品を応募しました。今回は、その作品をみなさんに紹介したいと思います。

対象図書は、年森瑛の「N/A」で、現代社会における多様性や個人の在り方について深く考えさせられる作品です。

### 「わたしの言葉で」

本書では、現代社会で良しとされている「多様性」がまどかを苦しめている。生理が来るのが嫌で、体重を保っているから「拒食症」、同性どうして付き合っていること

がバレると「レズビアン」、付き合っている人に別れ話をすると「同性愛者に向けられる世間の目に耐えられなくなつた人」、スタイルシユな外見から女子校では「王子」と崇められているなどなど。どこにいても様々な属性に押し込められている彼女は、とても窮屈そうに見えた。

様々な枠組みや言葉が認められた現在、私は個としての自分が薄くなつていくことへの恐怖を感じていて、そのため、様々な属性に重ねながら、ページを操る手は止まらなかつた。

物語を読み終えて思うことは、「優しさとは何か」ということだつた。世間は多様性を謳いながら、優しさでたくさんの言葉を生んだ。しかし、まどかの本心は「まどかをまどかとして見てほしい」と語る彼女の切実な思いに自分をかどしてずっと生きていたかった

この自由読書に、2年生の本間凜さんが作品を応募しました。今回は、その作品をみなさんに紹介したいと思います。

対象図書は、年森瑛の「N/A」で、現代社会における多様性や個人の在り方について深く考えさせられる作品です。

た、優しさを帯びたつもりの虚しい言葉の群れが、まどかを傷つけいく様子に、私の胸が鋭く痛んだ。

一方でまどかも、家族が病に伏せっている友人に対して、ネットの中から世間にお墨付きをもらつた優しい言葉を借りようとしている。自分の思いを打ち明けないと、自分だけの言葉を贈ることを渋り、ひたすら自分への言葉をくれる他人がほしいと嘆くまどかはひどく傲慢に見えた。

しかし、過去の自分を振り返ると私も傲慢だったのではないかと思ふ。

友人の悩みを聞いたとき、安易な言葉しか渡すことができないのに、自分がいざ悩みを言う立場になると理解してほしいと強く思つてしまふ。それだけでは何も分かってしまう。それだけでは何も分かってほしいうに、私も私として友人に理解してほしいと願うなら、「あなたはあなた」という姿勢を常に持って接しなければならなかつたのではないか。まどかの胸の中には、常に潜む強靭な思いが、物語を通して私にそう教えてくれたように感じる。自分の言葉で他人を個人として解釈してあげること。枠の重みを知りながら、他人にはつもらえないし、相手のことも何も分からぬのに。私もまどか同様、自分の言葉に責任を持つことの重みを知りながら、他人にはつもらえないし、相手のことも何も分からぬのに。私もまどか

としているときも、決まりきつた言葉や当たり障りのない言葉で最適解のような会話をかりを選択していた。相手への気遣いや思いやりで精一杯になり、他者の口から発せられる言葉を心に留め置くことは少なかつたように思う。例えば、「うつ病かもしれない」「ちょっとADHDっぽいんだよね」

というような友人の言葉を隣で聞く

くと、きゅつとお腹を抓られたよな違和感に襲われる。病気や障害の皮を被つてまで何者かになります。いつもそんな疑問が脳裏に浮かんでいた。しかし、それは病気や障がい者の典型的なイメージが私の中でこびりついているだけだ。

一方でまどかも、家族が病に伏せっている友人に対して、ネットの中から世間にお墨付きをもらつた優しい言葉を借りようとしている。自分の思いを打ち明けないと、自分だけの言葉を贈ることを渋り、ひたすら自分への言葉をくれる他人がほしいと嘆くまどかはひどく傲慢に見えた。

しかし、過去の自分を振り返ると私も傲慢だったのではないかと思ふ。

友人の悩みを聞いたとき、安易な言葉しか渡すことができないのに、自分がいざ悩みを言う立場になると理解してほしいと強く思つてしまふ。それだけでは何も分かってしまう。それだけでは何も分かってほしいうに、私も私として友人に理解してほしいと願うなら、「あなたはあなた」という姿勢を常に持って接しなければならなかつたのではないか。まどかの胸の中には、常に潜む強靭な思いが、物語を通して私にそう教えてくれたように感じる。自分の言葉で他人を個人として解釈してあげること。枠の重みを知りながら、他人にはつもらえないし、相手のことも何も分からぬのに。私もまどか

としているときも、決まりきつた言葉や当たり障りのない言葉で最適解のような会話をかりを選択していた。相手への気遣いや思いやりで精一杯になり、他者の口から発せられる言葉を心に留め置くことは少なかつたように思う。例えば、「うつ病かもしれない」「ちょっとADHDっぽいんだよね」

というような友人の言葉を隣で聞く



本間さんは、昨年も応募し県教育長賞・優秀賞を受賞しています。この感想文を読んだみなさんにも、思いました。素晴らしい感想文をリアル化された言葉で間に合うこ

がどうございました！

## 電子書籍で 広がる 読書の世界

### 現在の電子書籍市場規模と全国的な動向

日本国内の電子書籍市場は、ここ数年で急速に成長していて、2023年は、約5000億円規模となっています。特に漫画を中心としたコンテンツの需要増加や、スマートフォンやタブレットの普及、そしてコロナ禍によるデジタルコンテンツの需要拡大が市場の拡大を後押ししています。2024年の日本国内における電子書籍市場の規模について、現時点での正確な統計データはまだ公開されていませんが、2023年までの市場成長率や過去の傾向から推計すると、5000億円～5500億円程度になると見込まれます。

### 「電子書籍に関するアンケート」を実施

そこで、本校の生徒の利用状況はどうなっているのだろうと、全校生徒を対象にアンケートを実施しました。実施期間は1月8日から1月16日、全体で225名の生徒が回答してくれました。その結果をお知らせします。

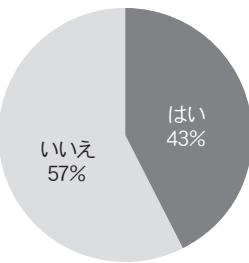
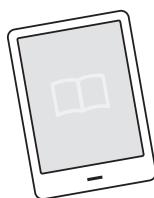
#### アンケート内容

- ① 電子書籍を利用したことがありますか
- ② (①が「はい」の場合) 利用頻度はどれくらいですか
- ③ (①が「はい」の場合) 利用する理由
- ④ (①が「はい」の場合) 利用する際のデジタル機器
- ⑤ (①が「いいえ」の場合) 利用しない理由
- ⑥ (①が「いいえ」の場合) 今後利用してみたいですか

#### ① 電子書籍を利用したことがありますか

- はい：96人（43%）
- いいえ：129人（57%）

①電子書籍を利用したことがありますか



#### ③ (①が「はい」の場合) 利用する理由

回答の多くが以下のような理由でした

- 漫画を読むため（例：「漫画を読みたいから」「漫画が読めるから」）
- 手軽さ（例：「書店に行かなくていい」「どこでも読める」「スマホで気軽に見られる」）
- 実用性（例：「本を置く場所がない」「紙より読みやすい」「無料作品が多い」）

漫画を読む目的が圧倒的に多く、電子書籍の主要な利用目的のようです。また、「どこでも読める」「紙の本と違ってかさばらない」といった電子書籍の利便性が大きな魅力となっていることがうかがえます。

#### ⑤ (①が「いいえ」の場合) 利用しない理由

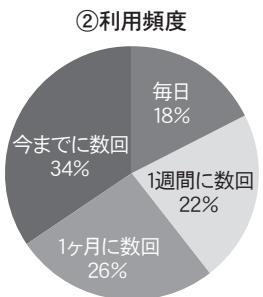
回答例：

- 興味がない（例：「興味がないから」「本を読まないから」「読む気にならないから」）
- 紙の本の方が好き（例：「紙媒体のほうが好きだから」「本は手にとって読みたい」）
- わからない・めんどくさい（例：「使い方がわからない」「どのように利用するかわからない」「面倒くさそうだから」）
- 目が疲れる（例：「電子だと目が疲れる」「画面が小さい」）

電子書籍を利用しない理由は、そもそも「本自体に興味がない」とこと、「紙の本へのこだわり」があるためのようです。また、電子書籍自体の利用方法がわからない、ハードルが高いと感じている人も一定数存在します。

#### ② (①が「はい」の場合) 利用頻度はどれくらいですか

「1か月に数回」や「今までに数回」の利用者が全体の約60%を占めており、一度試したもののが続続的な利用には至らなかつた人が多いようです。「毎日」利用する人は少なく、電子書籍が「時々使う」ものである傾向が見られます。

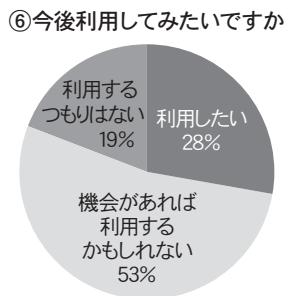


#### ④ (①が「はい」の場合) 利用する際のデジタル機器

回答してくれたほぼ全員が携帯、スマホを利用しておらず、パソコンも利用している人が3名、タブレットも利用している人が5名いました。③の結果にある「手軽さ」を考えると、利用がスマホに集中するのは自然なことかもしれません。

#### ⑥ (①が「いいえ」の場合) 今後利用してみたいですか

今後利用する可能性のある人が約8割います。今は興味が無かったり使い方が分からなかつたりする人も、電子書籍が今後さらに身近なものになると、目にする機会が増えるかもしれませんね。



### 読書は必要不可欠な行為

読書は、知識や思考力、感受性を育てるだけでなく、人生を豊かにする手助けをしてくれます。現代のようにデジタル化が進む時代でも、自分のペースで読書を続けることが大切です。

そのような中、電子書籍は、高校生にとって手軽でコストパフォーマンスが高く、学びにも娯楽にも活用できる優れたツールです。まだ利用していない人は、ぜひ体験してみてください。新たな良さを発見できたり、逆に、紙の書籍の良さを再認識したりできるかもしれません。ただし、「デジタル疲れ」や「集中力低下」といった懸念点も指摘されていますので、正しい利用を心がけましょう。



移動図書館

# 図書委員会活動報告

今後も、移動図書館を通して、たくさんの方々に図書をお届けしたいと思います。

図書館便り

図書便りは、読書や本への興味、関心を高めてもらうことを目的として発行しています。名物コーンナー「先生方へのインタビュー」では、先生方に読書にまつわるエピソードを聞いたり、おすすめの本を紹介してもらったりしています。さまざまな本が出てきて、お話を聞いているだけでもワクワクします。図書館や本にまつわる情報、しつかりとみなさんに届けられるよう、今後も魅力的な記事作りを目指したいと思います。

城南祭

「今年度の城南祭では、「しおりコンテスト」、「大型絵本の展示」「図書便り特別号の展示」などを



POP  
交流

関する本もありましたので、お母さんが小さな子どもに読んでいる姿が印象的でした。

編集後記

秋田県では、県内各校で作成した図書POP作品を交換・交流することで、読書活動の推進を図っています。本校も毎年参加をしていて、今年度は角館高校との交流となりました。興味が湧いたらぜひ手に取って、読んでみてください。そして来年度、POPを書いてみたいという人は、ぜひ図書委員に声をかけてください。

# 編集後記

今回は、電子書籍についてのアンケート結果を特集しました。本校では平成26年度から、3～4年おきに同様のアンケートを行っています。利用者の割合が最も多かつたのは平成30年度で、71%でした。それ以降はだんだん減ってきていて、今回も前回より利用者の割合が減少しています。このような社会の流れと逆行する変化の原因は、何なのかを探るような調査も今後

していけたらと思います。  
また、読書感想文について取り上げました。これを見つかけに、本を読んで終わりではなく、感じたことを表に出して残していくということを意識してみてはいかがでしょうか。本を読むことで得られる喜びや学びは、紙の本でも電子書籍でも変わりません。ぜひ、自分に合った形で読書を楽しんでください。  
今後も、生徒の皆さんにとつて興味深いテーマをお届けしたいと思います。ご意見があれば、ぜひ図書委員までお寄せください。

